

H30 海外臨床実習

番号	氏名	渡航先	国・地域	渡航先での受入期間
1	O. H	UAE大学	アラブ首長国連邦	H31/1/6-H31/1/31
2	T. Y	UAE大学	アラブ首長国連邦	H31/2/3-H31/2/28

平成 30 年度 岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

渡航先：UAE 大学（協定校） 医学科 5 年 O.H (Male)

スケジュール

1 か月の実習期間の前半 2 週間は内分泌内科、後半 2 週間は腎臓内科で実習を行った。内分泌内科では主に外来見学を行い、病棟回診やレジデント向けの勉強会等にも参加する機会をいただいた。腎臓内科では午前 8 時から夜間の患者の引継ぎのカンファに参加し、その後午前は病棟回診、午後は外来見学を行うという日程であった。

目的

日本で情報を得やすい欧米諸国とは文化、環境、宗教等が全く異なる中東での医療の実態を見てみたいというのが目的の一つであった。特に男女の区別が厳しいイスラム教徒の患者さんへの接し方を知ることは今後日本でも生かせるのではないかと考えた。

また、将来的に興味のある科の海外での治療の実態を知ることにも目的であった。

内容

外来見学では患者さんと医師はアラビア語で会話しているものの、合間に医師が英語で病気の状態や治療に関する説明を英語でしてくださった。病棟回診では患者さんの経過や治療に関して担当している学生や研修医が説明し医師が確認、実際に患者さんの問診を行うのを見学した。また医師から病気に関する質問をされる機会が多々あった。

成果

様々な点で日本との違いを見ることができた。また UAE の学生と一緒に実習をする機会があり、とても刺激になった。

まず、目的としていたイスラム圏での医療であるが、想像していたほど日本の医療との差はなかった。治療方針に関してはアメリカのガイドラインに準じていた。男性の患者さんは必ず男性医師が診療するのかと思っていたが、男女の区別は医療の分野では厳格ではないようであった。ただし、同性同士では握手をするのに異性では絶対にしない、医学部生の実習は男子が外科、女子が内科というように分かれているといったところで宗教的な違いを感じた。男女の区別以上に違いを感じたのが医者と患者さん、医療従事者同士の距離の近さであった。外来での医者と患者さんの会話はアラビア語のため理解はできなかったが、医者と患者というよりは友人のような雰囲気であり、患者さんも医師の言うことをただ受け入れるのではなく、自分の意見を主張しているようであった。さらに医師同士や医師と看護師の距離も近く、事務的なやり取りの際にも雑談をしてるのをよく見かけ、関係性が密であるような印象であった。こういった点はコミュニケーションの取り方として日本よりも優れている点なのかなと思った。しかしながら、外来に予約のない患者さんが

ウォークインで来る、逆に予約があるのに来ない人が多くいるといった驚くこともあった。時間の遵守を含めて体系的な部分はやはり日本の優れている点なのだと実感した。

次に違いを感じたのが医学生の実習に関してであった。UAEの学生は担当患者の治療方針を理解するだけでなく、薬の種類や容量まである程度自分で考え、医師の確認を得て自身でカルテに記載するとのことであった。そのため細かいところまで考えて質問をしていた。日本の研修医に近い意識や知識を持っており、自分の知識のなさ、受け身な実習態度を大いに反省した。また医学教育が英語でなされているため学生、医師ともに英語に堪能であり、欧米で働いた経験のある医師や今後海外で働くことを希望している学生が多く医療がグローバルで行われているのだということを体感できた。

今後の抱負

UAEの医療現場を見て、世界の医療についていくために身につけなくてはならないことが多すぎるほどあることを痛感した。まず学生の今から始められる実習に積極的な態度で臨む、英語論文を読むなど英語力を磨くといったことから始めていこうと思う。また、患者さんや同僚とのコミュニケーションの取り方等、今回の実習で見ることができた海外の医師の良い部分を忘れず、将来より良い医師となるために役立てていきたい。

最後になってしまいましたが、今回このような貴重な体験をできたのは奨学金の支援をしてくださった岸本忠三先生、協定校として交換留学の環境を整えていただいたすべての方々のおかげだと感じています。心から感謝しております。

平成30年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

UAE

医学部医学科 5年

氏名：T. Y

1. 本実習の目的

大きく3つあった。一つ目は普遍的な医学知識を深めること。二つ目は日本と大きく文化や環境の異なる国で行われる医療を体験することで、日本の医療を相対化すること。三つ目は、UAEの医学生や医師と交流すること。3つとも概ね達成できたと自負している。

2. スケジュールと実習内容

2.1 Endocrinology (第1, 2週)

二週目は二日間のオリエンテーションが行われた。

2.2 Pulmonology (第三週)

最初の二日は外来見学だった。

2.3 Infection disease

2.4 一日の流れ

8時から症例報告会。その後、レジデントや consulting doctor の指導の下、回診について廻った。1階に産科・外科病棟、2階に内科病棟があった。私は、内科のみをローテーションしていたが、産科や外科の病棟に入院の患者も上記の診療科の合併疾患を持つ人は診て廻った。

全日に課題が与えられた場合、それについての検討会を午後に行った。

3. 経験した症例

3.1 糖尿病

1型2型妊娠合併糖尿病など種類を問わず症例が多かった。consulting doctor によると、急激な環境変化の他、遺伝要因、特にいとこ婚が多いことなどが原因と考えられる様である。また、糖尿病足病変は感染症内科の医師が管理していた。

3.2 クッシング症候群

3.2.1 精神症状が重篤なため、経鼻カニューレ装着のうえ、ICUで管理されている症例。

3.2.2 中枢性クッシング症候群のために、中枢性尿崩症、甲状腺機能低下症、性腺機能低下症を併発した症例。

3.3 喘息

若年成人の例が外来を見る限り多かった。

3.4 結核

移民に多いようである。また、肥満の治療の胃切除後は、結核のリスクが増加する。

3.5 手術後の術部感染

4. 今後の抱負

今回の実習中、出会った症例から関連した課題を出して頂いて、次の日に発表するというのを多く行った。せっかく、大阪大学は Up to date を学生にも提供してくれているので、これを機に気になったことを日本語の教科書だけでなく、Up to date でも調べるようにしてみたい。

また、実習中、多くの人に親切にいただいたので、日本で留学生に出会ったら積極的に声をかけるようにしようと思う。

5. 謝辞

今回の実習にあたり、交換留学プログラムを提供し、留学準備の支援をして下さった大阪大学医学部教育センターの先生方、ご指導いただいた Tawam 病院の各先生方、コーディネートして下さいました Tawam 病院と UAE 大学の方々、経済面で多大な支援を頂いた岸本先生にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。